

競技上の注意と確認事項

1 競技規則

本大会は、令和5年度(公財)日本ハンドボール協会競技規則によって行う。

2 競技会場

(1) 競技会場・コートのはさは、以下のとおりとする。

○九州産業大学「大楠アリーナ2020」(40m×20m) 2面

(2) 別紙「感染拡大防止ガイドライン」「会場使用上の注意」等を遵守して使用する。

3 種別及び参加人数

参加人数は、チーム役員4名以内・選手20名以内の合計24名以内とする。

ただし、ベンチ入りの選手は、「16名以内」とする。

4 競技方法

(1) 競技方法は、以下の通りとする。

【男子】リーグ戦とダブルイリミネーション式トーナメントとする。

【女子】リーグ戦とする。

(2) リーグ戦の順位決定法は、以下の通りとする。

①勝ち点が多い方が上位とする。

(正規時間での勝利は、「勝点2」とし、延長戦での勝利は「勝点1」とし、負けは「勝点0」とする。)

②対戦間の勝利チームが上位とする。

③対戦間の総得失点差の多いチームが上位とする。

(ただし、総得点失点差は、前半25分・後半25分の正規時間のみでの計算とする。)

④対戦間の総得点が多いチームが上位とする。

(ただし、③と同様の計算とする。)

⑤総得失点差の多いチームが上位とする。

(ただし、③と同様の計算とする。)

⑥総得点の多いチームが上位とする。

(ただし、③と同様の計算とする。)

⑦抽選とする。

5 参加資格

参加資格は、実施要項「6-(1)~(3)」のとおりとする。

臨時トレーナーについては、別に定める。(※競技上の注意「16」参照)

6 競技日程・時間

(1) 競技日程は、プログラムのとおりとする。

(2) 競技時間は、「前半25分-休憩10分-後半25分」とする。

男子も女子も、同点の場合、トーナメント戦と同様にリーグ戦も下記のとおり、延長戦を行う。

【トス~第1延長(前半5分-休憩1分-後半5分)~7mスローコンテスト(5名)】

- (3) 競技時間は、加算式の電光表示板を使用し表示する。(卓上電光表示板を使用することもある。)
- (4) 競技終了やチームタイムアウトの合図は、ブザー・ホーン、または笛で行う。
- (5) ①退場者の番号と入場時間は、電光表示板(退場タイマー)または、「記録席上に用紙で表示」する。
②入場の判断は、チームの責任である。記録席から合図することはなく、問いかけられても回答しない。

7 大会使用球

大会使用球は、(公財)日本ハンドボール協会検定球とする。

○モルテン・・・男子2号球(H2D4000-RW) / 女子1号球(H1D4000-BW)

8 トス・ユニホーム

- (1) トスは、ユニホーム確認の際に記録席前で行う。立ち合いは、チーム役員・選手のいずれでもよい。その際、チーム役員の服装(色)及び臨時トレーナーの有無についても確認する。※11(5)、17(1)
- (2) トスの際には、代表者会議で配付した「エントリーシート」にベンチ入りする選手に○をつけて提出する。
- (3) 第1試合のユニホームの確認は、試合開始30分前に記録席前で行い、その後は前試合のハーフタイムで行う。確認の際には、試合に着用する全ての種類のユニホームを持参する。調整がつかない場合は、組み合わせによるチーム番号の大きいチームが変更する。
- (3) ユニホームについては、下記の通りとする。条件に満たない場合は、当て布等で覆わなければならない。その色はユニホームと同色でなくてもよいが、チーム全員が同色とし、同じデザインにする。
 - ① 番号の大きさ(高さ)は、胸10cm以上・背20cm以上とする。
 - ② メーカーのロゴは、20cm²以内の目立たないものとする。サポーター等も同様とする。
 - ③ 背中に氏名等の文字表記をする場合は、大きさ(高さ)10cm以内とする。
 - ④ 試合中にユニホームが破損したり、血液が付着したりして競技を続行できない時は、別のユニホームに着替えなければならない。その場合は、異なる番号でも良い。
 - ⑤ チームは、ユニホームとして「シャツ・パンツ・ソックス」の色をそれぞれ統一すること。
ソックスは、色が揃っていればよく、メーカーのロゴは問わない。
- (4) ゴールキーパー
 - ① チームで同色とする。
 - ② コートプレイヤーがゴールキーパーに代わる場合は、登録された同じ番号でなければならない。
併せて、登録されたゴールキーパーと同色のユニホームを着用することは許される。
- (5) 身につけられるものについて
 - ① 短パンツの下に着用するサイクリングパンツやウォームパンツ(アンダーウェア)は、短パンツの基調色か、同色とし、チームで統一していれば着用できる。
 - ② ユニホームの外にアンダーウェアが出る場合があっても、立っている状態で見えなければ正さなくてよい。
 - ③ 長袖のアンダーシャツ・アーム(ロング)スリーブ等は、ユニホームに使用されている基調色と同色であれば着用できる。
 - ④ ふくらはぎのコンプレッション(加圧)サポーターは、靴下と同色であれば着用できる。
 - ⑤ 複数の部位を覆うサポーター等やメーカーのロゴが20cm²以上ものは着用を認められない。
 - ⑥ 金具入り等、敵味方を問わず他の選手に危害を与えるものについては、その着用を認めない。
 - ⑦ 眼鏡及びスポーツゴーグル等を使用する際には、固定バンドの装着を必要とする。
ただし、金属製のフレーム等については使用できない。
 - ⑧ 詳細は、「JHA保護を目的とした装具」を参照すること。
- (6) 眼鏡・スポーツゴーグル
眼鏡及びスポーツゴーグルを使用する際は、固定バンドの装着を必要とする。
ただし、金属製のフレーム等については使用できない。

9 登録証・公認資格証とチーム役員・選手の確認

- (1) 事前に所定の手続きを完了した登録証のあるチーム役員・選手のみが競技に参加・出場することができる。
- (2) 交代地域には、チーム責任者1名、チーム役員3名以内、選手16名以内の合計20名以内が入ることができる。
- (3) チーム役員・選手の変更については、6月2日(金)までに変更申請が完了したことで決定する。
緊急な変更については、代表者会議でも受け付けるが、事前に大会事務局に連絡する。
- (4) ①トスの際には、テクニカルオフィシャル(以下:TO)に登録証を提出する。
提出不可、または不備(写真添付なし等)があった場合は、試合に出場・参加することはできない。
②**TOが、試合前に交代地域にてチーム役員・選手及び登録証を確認する。**
試合中は、TOが登録証を管理し、試合終了後に両チーム代表者に返却される。
③失格したチーム役員・選手、または、裁定委員会に提訴されるチーム役員・選手には、その場で返却しない。
- (5) チーム役員は、試合中に大会主催者が準備した「A・B・C・Dカード」を着用し、試合終了後に返却する。
チーム責任者は、「Aカード」を着用する。

10 公式記録用紙

- (1) **記録用紙は、ランニングスコア式とする。**
- (2) チーム責任者は、試合開始前に公式記録用紙に記載されている「役員氏名・カード、選手氏名・背番号」を責任を持って確認し、サインをする。公式記録用紙に記入されている者だけが、交代地域に入ることができる。

11 交代地域 ☆交代地域:「3.5mラインを始点とし、センターラインから12mの範囲まで」

- (1) 各チームのボール等の用具類は、競技開始前にケース等に収納して交代地域内にて管理する。
競技開始後は、ボールに触れることを含めてボールの使用を禁止する。
- (2) 飲料水は、飲み口の細い「個人の容器」を使用し、コップの使用を禁止する。
感染予防対策として、ペットボトルを用いたチーム内の回し飲みも禁止する。
- (3) 交代地域では、通信機器の使用を認める。
詳細は、JHAホームページ「交代地域に持ち込み可能な技術的機器に関するガイドライン」を参照する。
- (4) 試合中、選手が交代地域内で簡単な準備運動をすることは認める。
ただし、ボールの使用やコート内への指示・応援、立位のままで観戦することは不可とする。
- (5) チーム役員は、相手チームのコートプレーヤーと異色の服装でなければならない。
トスの際にユニホームの色が確定した後に、役員の色を確認する。
- (6) チーム役員は、原則として座っていなければならない。
ただし、チーム役員1名のみが、戦術的な指示や治療を目的として、交代地域の範囲内で動くことは許される。

12 チームタイムアウト

- (1) チームタイムアウトは、1試合で3回請求することができ、前後半にそれぞれ最高で2回まで請求することができる。
また、試合の後半残り5分間は1回しか請求できず、延長戦は請求できない。(女子交流戦は、1回のみ)
- (2) チームタイムアウト請求カード(グリーンカード)は、チーム役員だけが提出することができる。
請求する場合は、記録席まで持参する。提出するために、コーチングエリア(3.5m)を越えたらグリーンカードを提出しなければならず、躊躇することは許されない。
ただし、請求および受け取りと判定のタイミングにより、チームタイムアウトにならない時があるので、その場合は、グリーンカードをチームに戻す。
- (3) グリーンカードは、常にベンチに置いておかなければならない。請求する時のみ、持つことが許される。
- (4) グリーンカードは、TOが直接受け取ってよい。

13 休憩時間(ハーフタイム)

- (1) 休憩時間のコート使用は、次試合のチームが練習のため使用する。ただし、アップチームは感染症対策を万全に行い、試合中のチームに話しかけたり、不用意に接触したりしない。
- (2) コートの使用時間は「9分」とし、後半開始までの残りの1分間は、コート整備等の時間とする。
※タイマーは「9分の減算表示」とし、9分のブザー合図で速やかにコートアウトする。

14 テクニカルオフィシャル、裁定委員会

- (1) 本大会は、各試合にTOを配置する。配置は2名を原則とし、マッチオフィシャル(MO)兼務タイムキーパーを担当するテクニカルデレゲート(TD)、及びスコアキーパーを担当するTDで対応する。
- (2) テクニカルオフィシャル(MO・TD)は、競技委員長のもとで競技役員として各試合に立ち会い、各試合を円滑に運営するため審判員・全競技役員・補助員と協力して試合を管理する責任者である。
- (3) 本大会に裁定委員会を設置する。委員は、競技委員長・競技副委員長・審判長・副審判長などとする。
なお、必要に応じて関係者を同席させることがある。裁定しなければならない事案が生じた場合は、当日中に裁定して関係者に通知する。

15 次の試合のチーム役員・選手のフロアへの入場

次試合のチーム役員・選手は、前試合が終了後に両チームの挨拶が終了するまで、フロアへの入場を禁止する。競技中に次試合の役員・選手が、フロアで練習をしたり、試合を観戦したりすることがあってはならない。

16 臨時トレーナー

- (1) 臨時トレーナーとは、役員登録をしていない公的資格を有するトレーナーを指す。
トスの際には、必ずTOに申告する。席は、交代地域から離れた場所に設置する。
- (2) 臨時トレーナーは、交代地域やコート内に立ち入ることや応援・指示はできず、自席での対応のみとする。
選手は、一時的に交代地域から許可なく離れ、臨時トレーナー席で治療等を受けることができる。
- (3) TOが、試合開始前にトレーナーである資格証の提示を求める場合があるので準備しておく。

17 表彰

競技2日目に、決勝終了後に優勝・準優勝の表彰を行う。

18 感染症対策

- (1) 別紙「新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン」を参照し、大会期間中は、うがい・手洗い等、健康に十分配慮する。競技会場の内外において、マスクの着用は任意とする。万一の事態に備え、ホテル・旅館等でも検温ができる準備を各チーム・各自で行う。
- (2) 自己管理・感染症予防のためにホテル滞在中は、各室でも個人的に感染予防に積極的に取り組む。
大会前から練習中はもとより、生活全般で体調管理に留意する。
- (3) 競技中(試合中)、チーム役員のマスク着用は任意とする。
- (4) 大会前1週間にチーム関係者が発熱した場合は、その対応を含め、大会本部に連絡する。
- (5) 感染症対策の責任者は、チーム役員となる。移動行程や会場での感染症対策の他、チーム関係者から発熱者や体調不良者が出た場合は、責任者の管理下でホテル待機、医療機関、検査機関の受診等の業務に対応する。

19 危機管理

各チーム・各個人で危機管理意識を高く持ち、各種の緊急事態に備える。

20 試合の開始と終了

開始時は、選手全員が交代地域から横1列で入場して、あいさつをする。

21 観客席

- (1) 今大会は、スポーツ競技活動を通じた社会教育活動の一場面でもある。各チームの役員は、「競技上の注意」「新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン」「会場使用上の注意」などを選手たちに徹底させる。
- (2) **入館や退館の時間や人数の制限は、行わない。ただし、チーム関係者は、一斉入館・一斉退館を原則とする。**

22 申込チームの欠場(辞退)の場合

- (1) 欠場(辞退)による代替出場は行わない。
- (2) 欠場(辞退)チームの大会参加記録は、「参加」として記録する。
- (3) 試合記録は、欠場(辞退)のチームの不戦敗とし、スコアは0-16とする。
- (4) 競技日程・試合開始時刻などは、原則として変更しない。

23 大会期間中に発熱者が出場合

- (1) **発熱・咳・咽頭痛などの症状を訴える役員・選手を確認した場合は、速やかに帰宅させるかホテルに待機させ、医療機関・発熱外来などに相談する。**
- (2) 上記(1)を訴えた役員・選手からの聴取により、対面して食事をしたり、ホテルで同部屋だったりする等の接触があった者についても、その後の諸活動を中断させ、速やかに帰宅させるかホテルに待機させ、医療機関・発熱外来などに相談する。
- (3) 上記(1)(2)により、チーム内外に濃厚接触者および感染者の拡大が疑われる場合などは、チームとして、その後の参加(競技)を見合わせる。

24 大会期間中の集団飲食について

- (1) 競技会場内での昼食・間食などは、チーム内であってもソーシャルディスタンスを保ちながら、会話を控える等、感染症防止対策に十分配慮する。
- (2) 宿泊時の夕食や朝食など、チームで飲食をする場合は、多人数・長時間の飲食にならないように十分配慮する。

25 会場使用上の注意(大会会場の九州産業大学からのお願い)

- (1) **大楠アリーナは館内外およびその周辺は、禁煙となっている。喫煙については、所定の喫煙所を利用する。**
所定の喫煙所は、「1号館1階東側の屋外喫煙所」となる。所定以外の場所での喫煙および吸い殻の散乱等が見つかった場合には、ハンドボールでの使用が禁止される可能性がある。加えて、違反者とチームが特定された場合は、厳正なる対応を求める。
- (2) **観覧席での飲食は認められているが、各チームでゴミの持ち帰りを徹底する。**
※【大会運営側から】ゴミ袋を代表者会議の時に福岡市指定の「燃えるゴミ」、「ペットボトル用」をチームに二日分の各2枚ずつ配布予定である。また、退館する時にチーム応援席の周辺ゴミの回収も行う。
大会で発生したゴミは、体育館内(施設に備え付け)のゴミ箱に捨てないようにし、来館した時よりも、美化に努め、退館する。
- (3) **大楠アリーナは、観覧席を含め館内は多くのエリアで「土足禁止」となっている。室内シューズ(スリッパ)を持参いただき、外履き(屋外)シューズは、各自で管理する。**